

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名

滋賀県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	日野町立日野中学校					
学年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	6	8	2	23	42
生徒数	244	236	288	6	774	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力を育む教育活動の創造
- 自ら学び、自ら考える力の育成をめざして -

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

{ 観点1: 発展的な学習や補足的な学習など個に応じたきめ細かな指導のための教材の開発 }

個に応じたきめ細かな指導方法の工夫および教材の開発
各教科の研究授業の実施と実践事例のまとめ
(国語、数学、社会、理科、音楽、美術、技術・家庭、英語)
選択教科による生徒の興味・関心を生かした授業の工夫

1年生	音、美、技・家、体の4教科	11講座より1教科	15時間
2年生	国、社、数、理、英の5教科	10講座より1教科	35時間
	音、美、体、技・家の4教科	11講座より1教科	35時間
3年生	国、社、数、理、英の5教科	10講座より1教科	35時間
	音、美、体、技・家の4教科	11講座より1教科	35時間
	国、数、英の3教科	3講座より1教科	35時間

{ 観点2: 個に応じたきめ細かな指導のための指導方法・指導体制の工夫 }

少人数授業による指導方法の工夫・指導体制の工夫改善
1年生数学(中学校に入学してきたこの1年間で基礎・基本の徹底や習得を図るため)
1年生英語(中学校から履修する教科であり、入門期に充実したわかりやすい指導をおこなうため)
チームティーチングによる指導方法・指導体制の工夫改善
1年生数学(中学校に入学してきたこの1年間で基礎・基本の徹底や習得を図るため)
1年生英語(中学校から履修する教科であり、入門期に充実したわかりやすい指導をおこなうため)

{ 観点3: 生徒の学力の評価を生かした指導の改善 }

生徒の学力の評価を生かした指導の改善
教科部会を中心に評価規準の客観化・明確化と観点別状況の総括についての研究
各教科における指導と評価の一体化をめざす授業の工夫改善

(2) 年次ごとの計画

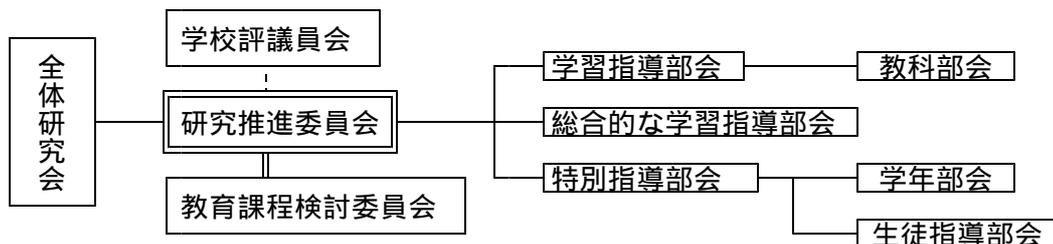
平成14年度	<p>テーマ 生きる力を育む教育活動の創造 - 自ら学び、自ら考える力の育成をめざして - 研究の見通し（仮説）</p> <p>基礎・基本の確実な定着と個に応じたきめ細かい指導を実践することによって、生徒は自ら学び自ら考える力を培い、確かな「生きる力」を育むことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>少人数授業やチームティーチング等による個に応じた指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業およびTTによるきめ細かな授業の実施 ・各教科の研究授業の実施と指導方法の工夫 <p>選択教科における生徒の興味・関心を生かした授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選択履修幅の拡大 ・多様なコースの開設 <p>指導と評価の一体化をめざす授業の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準の作成 ・多様な評価方法の工夫
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 生きる力を育む教育活動の創造 - 自ら学び、自ら考える力の育成をめざして - 研究の見通し</p> <p>基礎・基本の確実な定着と個に応じたきめ細かな指導を実践することによって、生徒は自ら学び自ら考える力を培い、確かな「生きる力」を育むことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>少人数授業やチームティーチング等による個に応じた指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業における効果的な授業の編成の検討、実施 ・チーム・ティーチング等による個に応じた指導方法・指導体制の工夫 <p>選択教科における生徒の興味関心を生かした授業の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科の補充・発展的な内容、焦点化した内容での実施 ・発展的な学習や補充的な学習の指導のための教材の開発 <p>指導と評価の一体化をめざす授業の工夫改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・評価規準の作成（昨年度からの継続） ・ねらいを明確化した指導の改善事例についての研修
--------	--

平成16年度	<p>テーマ - 自ら学び、自ら考える力の育成をめざして -</p> <p>研究の見通し</p> <p>基礎・基本の確実な定着と個に応じたきめ細かな指導を実践することによって、生徒は自ら学び自ら考える力を培い、確かな「生きる力」を育むことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>少人数授業やチームティーチング等による個に応じた指導方法・指導体制の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業における習熟度別、希望別などの効果的な授業編成の実施 数学科や英語科におけるきめ細かな少人数授業、習熟度別授業授業の工夫 ・教材の開発や活用事例の集積 選択教科における生徒の興味関心を生かした授業の工夫 ・発展的な学習や補充的な学習の教材の開発と活用事例 指導と評価の一体化をめざす授業の工夫改善 ・評価規準の客観化・明確化（継続） ・単元における「指導と評価の計画」作成
--------	--

(3) 研究推進体制

昨年度に引き続き、教育課程検討委員会（メンバー：校長、教頭、教務、研究主任、学習指導主任、少人数主任）が学力向上フロンティア事業の推進委員会を兼任した。



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

きめ細かな指導をすることにより、より「確かな学力」学力を育成できるの
あるということを仮説として下記の内容により研究を重ねてきた。

・少人数授業による指導方法、指導体制の工夫については、数学科や英語科の少
人数授業への取り組みがあげられる。生徒の感想をあげて成果をあげるなら、下
記のようなことになる。

人数が、少ないということは、やはり一人ひとりにかかわれる時間も多くなり
り、きめ細かな授業ができる。

子どもにとって教師にとの距離が近くなり、発言や質問などをする機会も増え、
学級単位で授業をするよりも集中度が高まる。

生徒の感想には、「人数が少ないので、自分で問題を考えることが多くなった。」
と答える生徒が出てきた。

いずれも、授業実践を通じて生徒の中からは、前向きな声が多かった。ほとん
どの生徒は、「やりやすい」という感想をもっているのがわかった。また、少
人数授業により、より授業に積極的に参加する機会が増え、そのことが、自ら
学び、自ら考える力の素地の育成にもつながることにもなることがわかった。

さらに、ペアになる2人の教師間でお互いに指導法や教材プリントなどの交流
ができ、教師の指導力の向上につながる側面があることもわかった。

選択学習や総合的な学習の中で、教材や教具を工夫により授業についてより積
極的に取り組む事例もでてきた。

2. 今後の課題

昨年度に引き続き、数学科や英語科では、授業を公開して少人数指導できめ細かく授業の工夫をし取り組むことができたが、全教科が同じように少人数でとりくむことはできなかった。このことは、指導者である教科配当の人員にもよるが、できることなら他の教科においても効果があるのか検証したい。

個に応じたきめ細かな指導のための教材の開発や指導方法、指導体制の工夫改善さらに、生徒の学力の評価を生かした指導の改善をしていくことがより「確かな学力」の育成につながるのであるということの実証を次年度1学期や2学期の実践の中でさらに検証することが大事だ。さらに、今年度実施したアンケートの結果（詳しくは、本校の実践記録集「日野中教育」に掲載）から、学校だけでなく家庭の学習（習慣）と学力との関係、さらに食事や睡眠といった生活習慣と学力についての相関関係についても、部会の中で詳しく分析したい。

「自ら学び、自ら考える力の育成」は、「基礎・基本の定着」と「個に応じたきめ細かい指導」を実践していくことが大事であるということを実証授業やアンケートなどにより生徒の実態調査から迫っていきたいと考えている。

また、授業を実践する上で、教科の年間指導計画をしっかりと立て、客観的な評価規準を作成し、確かな評価を日々の授業の実践の中で、生徒に返していくことから始まる。さて、次年度、下記のように研究の見通しを立てた。職員会議で共通理解を図ったところである。

次年度の公開授業 6月7日（月）～11日（金）
夏季休業中 実践記録集執筆（全教職員）
2学期（9、10月初旬）授業を含めた各自の実証研究
10月29日（金）（最終年度）学力向上フロンティア事業授業公開
研究発表会
2学期末より「日野中教育（本校研究紀要）」27号執筆

学力把握のための学校としての取組

1. 確かな学力をつけるための学習意識調査

日野中学生が勉強することについてどのように考えているかを調査した。調査内容は、「学校や家庭の学習」や「生活」についてである。調査内容のもととなる質問内容は、千葉市や札幌市、あるいは、滋賀県の青少年の意識調査をベースに調査を実施した。実施時期は、11月14日。詳細は、「日野中教育」

2. 数学や英語の「確かな学力」をはかるための調査（予定）

次年度、少人数教室や習熟度別授業を数学科や英語科で実施していく上で、生徒の数学や英語の基礎学力の実態をつかみたいため調査を考えている。

校内研究会の一コマ [11月19日]



フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- * 研究会、説明会等の開催実績及び開催予定（日時、場所、対象、会の目的等）
 10月21日 学力向上フロンティア事業研修会「中間報告会」
 11月19日 学力向上フロンティア事業授業研究会発表会
 滋賀県教育広報誌「教育しが」No.208 7月号p.6に「特色ある学校紹介」の中で、自ら学び、自ら考える力の育成をめざしてと題して、学力向上のとりにくみのようす広く県内に紹介された。
- * フロンティアティーチャーとしての研究成果普及のための活動実績又は予定
 11月19日 日野中学校 学力向上フロンティア事業授業研究会発表会ブロック内を対象とした公開授業 公開内容 数学科、英語科の少人数授業（2クラス 4教室）および研究会 対象としては、町内小学校、高等学校ブロック内学力向上フロンティア校などである。
 研究会では、大学教授や数学や英語の指導主事先生らによる授業の講評と「確かな学力」を育成するためにはどのようなとりにくみが効果的であるかなど聴き参加者全員で研修を深めた。また、研究会に参加して 戴けなかった学校においては、教育委員会や管区の小中学校に当日の資料を配布した。
 また、本年度の研究実践を「日野中教育」26号にまとめて掲載する。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無